

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

2011.10

122

号

りべら

特集：地域交流スペース「あおぞらイコバ」貸出中…1

あおぞらイコバ利用者の声!…2

第4期環境フロンティア講座：東日本大震災 原発事故とこれからのエネルギー問題…3

ぶらりとゆるりと西淀川めぐりーサンリバー柏里(柏里本通商店街)ー…5

西淀川記憶あつめ隊：和田美頭子さん…6

りべら連載：岩手県遠野からの便り…7

カマタ商店の”大人の何でも相談室”…7

忙中一筆 見島英之さん…8

あおぞら財団のこれから 新理事紹介…9

あおぞら財団15年間の道のり…11

あおぞら広場…13



特集

地域交流スペース 「あおぞらいコバ」

貸出中

自主企画・運営の
「月イチ会」やっています

イコバって
どういう
意味？

「イコバ」は、「憩う場」行こう
と思う場から名づけました。
いろんな人が、この「イコバ」
という空間で出会って、いろ
んな形でつながって、面白
かったり、真面目だったり、
ユニークだったり、そんな活

ジャズコンサート「JAZZ ICOBA」

動を展開していきたいと、
2010年12月にあおぞら財
団が入居するビルの1Fに
開設しました。地域住民や学
生たちがセルフビルドで作
りました。めざすは地域交流
の場です。
スペースの貸出をおこなっ
ており、会議やギャラリ、
コンサート会場として利用
されています。が、フル稼働
には、まだ余裕がありますの
で、ぜひ、みなさまご活用
ください。



大阪名物！おいしいミックスジュースをつくろう

みなさまに使っていただい
てナンボのイコバではあり
ますが、自分たちでも使っ
ていこうと自主企画・運営して
いる会があります。「月イチ
会」です。決まっていること
は「月に1回、何かをする」だ
け。毎回、内容やテーマはバ
ラバラ。この中から「月イチ
会」からは独立して、継続的
に開催できる企画が生まれ
たり、運営に参加してくれる
人が出てきたりしながら、イ
コバを地域に定着させてい
けたらと思います。
イコバでこんなことしたい
な、あんなことしたらどうだ
ろ？といったご希望、アイデ
ア、大歓迎ですので、どうぞ
よろしく願います。

鎗





5月25日(木)

大阪名物ミックスジュースを作ろう!

子どもたちと一緒にミックスジュースを作りました。大人子どもあわせて26人の方が参加しました。作り方を教えてもらったので、家でもやりたいという感想をいただきました。趣味の教室などとしてもご利用いただけます。



いろんなことに参加して、いろんなことを感じてほしいと思います。

おかしを作ったり、冬には小さいクリスマスツリーを作ったりしたい!

長沼光世さん、梨沙ちゃん、大輝くん、奈良崎晴己くん

子ども利用者の声!

6月24日(金)

ジャズコンサート「JAZZ ICOBA」

プロのミュージシャンを呼んでのジャズコンサート。40名近くの方に来ていただき、満員御礼となりました。またやってほしいという声をたくさんいただきました。音楽をやっているコンサートをやりたい方への貸し出しも可能です。



龍和美さん

ライブの途中で、みんなと一緒に歌って楽しかったです。高原がさんのパワフルな歌声が素敵でした。

これまでの「月イチ会」

4月22日(金) お話を聞く会「東日本大震災被災地ルポ」

5月25日(水) 大阪名物! おいしいミックスジュースをつくろう

6月24日(金) ジャズコンサート「JAZZ ICOBA」

7月21日(木) 有機野菜市とフェアトレードショップ〜CAFE SLOW OSAKA〜

8月22日(月) 有機野菜市とカキ氷とフェアトレードショップ〜CAFE SLOW OSAKA〜

※今後の予定: 廃油キャンドルづくり、音楽コンサート、お茶会など

7月21日(木)、8月22日(月)

有機野菜市とフェアトレードショップ

カフェスロー大阪さんがあおぞらイコバを八百屋みたいになりました。開店早々から通りがかりの人がぞいて、野菜を買っていきます。他にもフェアトレードの商品を並べていました。あおぞらイコバはちょっとした販売スペースにもなります。



見島英之さん

自分の作った野菜を売ること、農家さんの体験が来てよかったです。



第1回

7/1

速水 二郎 さん

電力労働運動近畿センター

福島原発事故.. 原子力政策は どう変わるのか？



速水さんは「日本は『原子力立国政策』で、CO₂を出さないクリーンなエネルギーとして原発を上げたが、実際にウラン鉱石から原発に使われる燃料にするまでに多くの作業や移送があり、その過程でCO₂が国外で排出されている」と原子力が温暖化対策から見てもクリーンではないと指摘し、日本の地球温暖化対策の取り組みについ

て、「自然エネルギーの潜在量をすべて実現できれば、原子力発電に頼らなくても目標を達成できる」と説明しました。復興においては「被災者の立場に立って、憲法に掲げられている権利に基づき、震災前の暮らしに全員が復帰できる施策の実現に向け、国、企業、政党、行政は全力をあげるべき」と述べました。

あおぞら財団では環境問題に関心を持っていたり、仕事やボランティアをしているが色々疑問や悩みを抱えている人などを対象に、環境フロンティア講座を開講しています。第4期は東日本大震災で起きた福島原発事故を受け、原発、エネルギー分野の専門家を講師に招き、事故の詳細や、再生可能エネルギーについて学びました。のべ116人の方が参加しました。

これからのエネルギー問題

第2回

7/15

西川 榮一 さん

神戸商船大学名誉教授

原発事故からみた 技術利用の 安全問題



西川さんによると、原発は「安全な技術ではなく、過酷な事故が起こったときには手に負えない事態に陥る可能性が高い」ものであり、「福島原発も、廃炉になった原子炉を解体するのには数十年かかる」ほどにリスクが高いものである。その原発について西川さんは「国と東電が一体になって反対意見を封じ

込め、第三者検査機関ゼロの原発推進体制を作ってきたことは由々しきこと」と、安全のために第三者検査機関の必要性を述べ、「日本では第三者検査について先進国の中で最も遅れている状態であり、第三者検査が行われる体制づくりが求められる」と指摘しました。

第3回

7/22

大島 堅一 さん

立命館大学国際関係学部教授



エネルギー政策は これからどうなるのか、 その選択肢は？

大島さんは原発のコスト計算を研究しており、「原子力はコスト安で優れたエネルギーだと言われてきたが、電気代からの費用徴収や、国の予算から出される費用から実際のコストを出す」と、原子力はコスト安ではないし、使用済み核燃料の再処理にかかる莫大な費用は電気代の中で徴収され

ていることを鑑みると原子力は優れたエネルギーではない」と説明しました。また「日本が政策として再生可能エネルギーへの移行に本気で取り組めば15年程度で実現できると思う」「そしてそれを実現するためには「市民の責任ある関与が求められる」と市民の役割についても言及しました。

<http://aozora.or.jp/archives/category/frontier>

第4期環境フロンティア講座

東日本大震災 原発事故と



第4回

7/29

和田 武 さん

自然エネルギー市民の会代表



実践事例から学ぶ、 再生可能 エネルギーの普及

ドイツやデンマークの事例から和田さんは、「ドイツでは再生可能エネルギーはポピュラーなものであり、原子力のオルタナティブとして政策に位置づけ進められており、日本でも国民の声がしっかり政治に反映されるような仕組みがあれば、脱原発の流れも進む」と、国民の声が政治に反映されれば、再生可能エネルギーが推進されることを指摘し、「日本とヨーロッパの再生可能エネルギー普及の差は、

民主主義の成熟度に大きく関係している」と述べました。「再生可能エネルギーの設備は小型で、市民や地域主導で進めることができ、そこに行政も関われば、再生可能エネルギー普及を大きく進められる」と、市民や地域の力と再生可能エネルギーの関係について触れ、「今私たちは岐路に立っており、将来世代のことを考え判断、行動することを求められている」と締めくくりました。

burari

gururi

ぶらりとぐるりと 西淀川めぐり



あおぞらスタッフが街に繰り出して体当たり取材!第一弾はスタッフ御用達の柏里本通商店街です。JR塚本駅前にあります。

(イラスト:とりやまひろこ)

第1回

サンリバー 柏里 柏里本通商店街

小田米穀店

昔ながらのお店がまえて、お豆を選ぶこともできます。どうやって食べたらおいしいかを教えてくれるのが対面販売のだいご味ですね。おいしいお米や豆を食べたいときはぜひ小田米穀店へ。



七色の照明がきれいなアーケードがトレードマーク!この商店街を通ると、なんと明日の天気かわかるそうなの。点滅が、赤だと「晴れ」、白だと「くもり」、青だと「雨」。これを見たら、つい誰かに話したくなりますね!



柏の里

お花がきれいに手入れされ、お地蔵さんがいるホッと一息つける場所が商店街の一角にあります。高齢者の方が多い商店街なので、少しでも商店街に来るときの助けになれば...という思いから作られたスペースです。腰をかけられる縁側やお手洗ひもあります。ぜひ気軽に利用してみてくださいね。

実は太陽光発電も利用している、エコな商店街なんです。



もっとちいさなレストラン 「マッシュルーム」



コック服がぴしっと決まった井上さんご自慢の料理はどれもおいしい。卵は口の中でほわっと広がり、ハンバーグのジューシーさとソースが絡み合う。店内の装飾やメニュー表のイラストは、なんと井上さんの手作り!とっても可愛いレストランです。

もっとちいさなレストラン 「マッシュルーム」

休 日曜
営 11:00~14:00、17:00~20:30
(注文は20:00まで)
☎ 06-6474-3645

小田米穀店

休 日曜
営 9:30~18:30
☎ 06-6471-5629

柏の里

休 正月1~4日
営 10:00~18:00
☎ 090-7340-6533 (藤井)

<http://blog.zaq.ne.jp/sunriver/>

もっとちいさなレストラン 「マッシュルーム」

柏の里

西

東

ライフ

小田米穀店

インフォメーション

西淀川記憶あつめ隊

2010年から細々と西淀川地域の方々のライフヒストリーを聞き書きしています。戦争を潜り抜けてきた方々の人生は、ドラマに満ち溢れており波乱万丈です。伺ったお話しの一部を紹介します。

2011年5月13日、
8月5日聞き取り



和田 美頭子さん

◆鴻池組で電話交換手に

1927(昭和2)年に香川県で生まれました。大阪には1937年にやってきました。1940年から此花区の伝法北3丁目にあった鴻池組に給仕として働きました。鴻池組から日本橋の電話交換手養成研修に通い、電話交換手の資格をとりました。戦争の色合いが濃

◆結婚、西淀川へ

1948年に鴻池組の先輩で勉強をよく見てくれた重種さんが戦争から帰ってきます。美頭子さんを高松まで訪ねてきて、結婚という流れとなり、西淀川区の花川へ居を構える事となりました。現在もその場所にお住まいです。西淀川も戦争

の空襲の被害がありました。花川の周辺は焼け残っていたそうです。当初の生活は水道が通っていたけれど、ガスはなく薪で煮炊きをしました。洗濯はたらいです。西淀川は土地が低く、1950年のジェーン台風や、大雨の時に家の中に水が入るのが嫌だったそうです。

◆オフィス街で牛乳配達

重種さんは日新化学に勤めていましたが、レッドパージで職を追われます。美頭子さんは自宅でせんべいを焼いて駄菓子屋さんに卸したり、歌島にあるグリコの工場でグリコやビスコを包んだりする期間工の仕事をして家計を支えます。日雇



28歳頃、職場仲間と後列左から2番目が美頭子さん

手帳を申請してハシケの仕事もしました。高所恐怖症の美頭子さんは怖い思いをしながら渡ったそうです。子供



38歳頃の美頭子さん。淀川土手にて

が学校から帰って来た時に迎えられるようにと朝早い仕事をしようとして、1956(1970年まで北浜のオフィス街で牛乳配達をしました。20本入りのケースをもつて階段を上って売り歩いたそうです。

お得意さんから靴をプレゼントトされたり、お客さんの趣味の会に呼んでもらったり、品があつて働きの美頭子さんは人気者でした。

◆だまっていたらだめだと公害裁判へ
その後、姑の介護のため西淀川区で働くようになりますが、1973年ごろから痰が出始めて1977年に公害病の認定を受けます。当時は夜に顔をハンカチで拭くと黒く汚れた

り、ワイシャツに汚れの首輪がついたくらい空気が汚かったです。美頭子さんは公害裁判の原告となりますが「だまっていたらだめだ」という気持ちを抱いて運動を続けてきました。

小学校を卒業してから、困難な中でも働き続ける美頭子さんの芯の強さに感動していると、美頭子さんは「人との出会いで人生が助けられたのよ」と教えてくれました。美頭子さんの話には沢山の人が出てきます。近所の方々や日雇手帳の申請を助言してくれた手配師、牛乳配達を紹介してくれた主婦連の人など、いろいろな場面で手を差し出してくれる人がいました。しなやかに生きながら、芯が強い美頭子さんのような人生の大先輩が西淀川にいる事がとても誇らしく思いました。

<http://www.tonotv.com/members/yamasatonet/>



岩手県遠野市は、
農業地域であり、
昔から内陸と沿
岸の交易の中継
地点として栄えて
きました。また、
四季のはっきり

した土地であり、柳田國男の「遠野物語」に代表される伝
承文化が数多く残っています。当法人は「地域の元気」の
ため、それらを活用すべく8年前に設立されました。
さて、東日本大震災を受け、遠野は被災地の後方支援拠点
となりました。そこでは官民が協働で「復興」に向けた取
り組みが今も行われています。今、遠野に来る方の多くは
被災地ボランティアへの参加が目的です。津波被害のあつ
た沿岸被災地地域はもちろん、遠野市内の陶芸家さんの
収入源でもある焼き窯や仲間の集まる遊び心ある窯が震災により全壊し、その復興のお手伝いも行ってい
ます。参加した学生は、報道されない内陸にある震災被害の状況をはじめて知り、「震災」の状況を体験を
通して、理解していました。個々の想いと協働が重なる先の復興に向け、後方支援活動は続きます。



「内陸の復興と

都市部の学生の結び目」

NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク事務局
田村 隆雅

あおぞら財団の東日本大震災支援活動(BDF車両
「あおぞら号」の寄贈)を通じて、ご縁が繋がった
「遠野山・里・暮らしネットワーク」さんから、被災地
の暮らしや風景をお伝えいただく連載コラムです。

りべら連載

大阪市
西淀川区にある手前
が雑貨屋、奥がカフェのカマ
タ商店店長です。自転車と写真、
そしてサザンオールスターズをこ
よなく(?)愛するいい人です。

【カマタ商店URL】

<http://www.kamatasyo-uten.com/>

カマタ商店の“大人の何でも相談室”出張りべら版

今日も店主は独りで善がる

こんにちは、こんばんは。相談役を勤めす、私、カマタヤスヒコと申します。どうぞ
ひととき、お付き合いくださいませ。記念すべき第一回は飲食店営業にまつわるお悩
みをお持ちの方々にお集まりいただきました。では早速お一人目の方、どうぞ〜



カマタヤスヒコ

Q:喫茶店お勤め半年目のYさん(32)のお悩み

「コック長が食事メニューを増やしてくれませんか(現在二品のみ)いい口説き方はないものでしょうか？」

A:うむ…。スポーツ新聞を覗きながら。ナポリタン、オムライス、
ミックスサンドなどなど美味しい定番メニューで空腹を満たし

たところに挽きたて淹れたて珈琲。夏場でもHOTでいきましょ。エアコンの聞いた
店内でグビッとね。これが私の喫茶店に求める醍醐味。Yさんところは、食事メ
ニューが二品ですか…。ふむ、この問
題…見えました…。私が思うに、もし
かしてその二品は、Yさんも気付いてい
ないほど、コック長のこだわりある二品
なのかもしれませんよ!食材調達が三ヶ

月も掛かる厳選素材だったり、仕込みに72時間煮込み必要だつ
たり、お皿が北大路魯山人だったり…。メニューを増やす事より
も、そのこだわり抜いた料理をどう宣伝し、お客様に伝え、注文を
頂くかをお店全体で考えるのが先決ではないでしょうかね。まあ、
私自身二品とも見たことも食べたこと無いですし、喫茶店の醍醐
味を味わえないYさんここに足を運ぶことはないでしょうけど
ね…。お店のますますのご発展を願っております。あつと残念。第
一回はここでお時間となりました。皆様、お付き合いいただきあり
がとうございました。第二回は「小売・雑貨店」の悩みをテーマに
色々お話できればなと思っております。今回が最後かもしれませ
んがね…。ではまた逢える日まで。ごきげんようさようなら。



写真はイメージです

「つながり」を大切にすること

Cafe Slow Osaka

カフェスロー大阪

十三のジュース工場跡を改装したギャラリー。

何か地元の役にたつように、文化発信の拠点として、みんなが喜ぶ場にと、言ってギャラリ－を提供してくれた大家さんを

参加型オーガニックカフェ＆
コミュニティスペース

「スローな情報発信基地」になるようにいろんな人のいろんな思いが集まる場所、それが力

はじめ様々な人の協力のもと
2007年にカフェスロー大
阪は生まれました。

スローフード・フェアトレードをコンセプトに、お米は滋賀、野菜は大阪、日本では手に入りにくい紅茶や珈琲はフェアトレードのものを使っています。

フェスロー大阪の
レンタルスペース。
ヨガ教室、講演会場
スローなイベント
開場として、様々な
要素が『スロー』の
つながりの中にあ
る、一期一会であ
る。スローな空間。
カフェスペースで
は「オーガニック・

ること。虫も、魚も、海も、川もあること。あなたも、わたしも、地球上のすべてのいのちは、まるく有機的につながり、生き、生かされているはず。しかし、人と人、人と地域や自然のつながりが薄くなってしまった今、地球のバランスも崩れ、様々な環境問題が表面化しています。

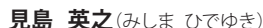
カフェスロー大阪では、ゆったりと、自然を感じる料理やイベ

ントを通じて、こだわりのない自然なつながりを感じてもらうことで、現代社会の生活の中にスローを意識していただけるような取り組みを心がけています。

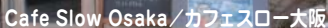
ローな活動のひとつ。『畑で野菜を作る』なんて、忙しい暮らしの中では、なかなか一人で出ないもの。学生、社会人、主婦といろんな人が参加して、みんなで畑を借りて無農薬で野菜を作っています。

ことも。いろんな体験をシェアすることで、一人ではできないみんなが、楽しく農を暮らしの中心に取り入れることができています。

『おおぞら財団』さんには財団主催のエコでつながる西淀川のツアーに参加させていただいたり、お弁当の配達をさせていただいたりといろんなつながりがうまれ、この夏には、おおぞらエコバで野菜市を開催していただき、チャレンジ畑で作った野菜が西淀川の皆さんのもとへ渡ったりと広がるつながりがますます楽しみです。



高校の同級生2人で2005年に移動販売CafePitwuを創業。全国のイベント出店の旅に出かける。07年に地元・大阪でのご縁からCafeSlowOsakaを開店。農がなければ飲食店はできないと、チャレンジ畑部で農業にも挑戦中。



所 大阪市淀川区十三元今里2-5-17

☎ カフェ:火～金 14:00～20:00 / レンタルスペース:火～日 10:00～21:00

☎06-7503-7392 (電話受付:火~金 14:00~20:00)

HP <http://cafeslow-osaka.com/>

あおぞら財団のこれから

あおぞら財団にとって2011年は、設立15周年でもあり、公益財団法人に組織変更した年でもあります。ここでは新理事を紹介します。あおぞら財団のこれからの意気込みをどうぞ。

五十音順



長瀬 文雄 (ながせ ふみお)
全日本医療機関連合会
事務局長

- ①1975年に西淀病院に入職し、その時から喘息児サマーキャンプや大気汚染公害の実態調査、裁判闘争支援に関わるようになりました。幼い子どもが発作で病院に夜間に駆け込んでくる日が日常でした。
- ②裁判に勝利し、この財団が出来たことは、宝物です。可能性は無限だと思います。
- ③明けない夜はない



植田 和弘 (うえた かずひろ)
京都大学大学院経済学研究
科教授

- ①一番最初のきっかけが何だったか今思い出せないのですが、環境経済学に関する知見を裁判や地域再生に活かすように求められたことだったことは確かです。
- ②環境地域再生における先導役になる活動を期待していますし、それに私も関与したと考えています。
- ③「どうなるか」ではなく「どうするか」



新田 保次 (にいた やすつく)
大阪大学大学院工学研究科
教授

- ①もともと学生時代から、道路公害問題の解決に関心があり、研究者の道を選びましたが、あおぞら財団の設立後、傘木研究員のお誘いにより、主に調査研究を通じて財団の活動にかかわるようになりました。
- ②公害地域再生と持続可能なまちづくりの日本及びアジアのセンターとして発展させていきたいですね。
- ③「牛歩の歩みも千里」(丑年ですから)



金谷 邦夫 (かねたに くにお)
内科医師
生活協同組合ヘルスコープ
おおさか理事長

- ①西淀病院時代に「西淀川大気汚染裁判」に関わり、その後も環境公害問題に少しかかわっていたから、声をかけられたのだと思います。
- ②地元で評価される活動と、広い視野での活動・評価を受ける活動。
- ③前を向いて進むことのみ



藤江 徹 (ふじえ いたる)
あおぞら財団事務局長

- ①都市計画(まちづくり)の仕事をしていた縁で、2004年にあおぞら財団への転職しました。それまではあおぞら財団や西淀川公害のことは知りませんでした。
- ②地域再生・環境再生を目指して、西淀川区に住んでいる人にもっと知ってもらい、関わってもらいたい。
- ③健康第一



高田 研 (たかた けん)
都留文科大学教授

- ①財団発足当時におられた達脇明子研究員が大学の同窓生で、相談を持ちかけられたのがきっかけ
- ②財団運営を黒字に転換
- ③宮沢賢治の「稲作挿話」読んでみてください。

新理事紹介

- ①あおぞら財団、西淀川公害にかかわるようになったきっかけは？
- ②あおぞら財団に期待すること・これから一緒にやりたいこと
- ③座右の銘



山崎 光信 (やまさき みつのぶ)
株式会社山崎シャーリング会長

①出身地である歌島地区で工場を経営していましたが、中島工業団地に昭和50年頃に移りました。当時は、草が生えているだけの荒地でしたが、企業が協力し合って、上下水道を整備し、行政とも連携しながら、公害を出さない工業団地として、地域との共存共栄を目指してきました。今から40年近く前の話

ですが、その頃、森脇理事と知り合い、今回、新理事に就任することとなりました。

②子ども達がちゃんと生きていけるように、やはりエネルギー問題の解決は必要。また、以前、見に行った「秋田の竿燈まつり」では、子どもから大人までそれぞれが関わる中で生み出される祭りの一体感に感銘を受けた。世代を超えてちゃんと教え合うことができる関係性、世代のつながりをつくっていくような取り組みを目指してほしい。

③誠実



村松 昭夫 (むらまつ あきお)
弁護士、理事長

①弁護士登録直後から、西淀川公害訴訟弁護団に参加し、国や旧阪神高速道路公団の道路公害責任の追及等を担当。訴訟解決後は、地域再生等の研究会に参加し、監事、理事を経て現在理事長を務めています。

②あおぞら財団は、公害患者の皆さんが訴訟の解決金の一部を拠出し、公害地域の再生を住民が主役となって進めることを目的として設立されました。こうした試みはわが国で初めてのものであり、大変重要な意義を持っています。試行錯誤の連続ですが、時代を切り拓く事業として一層発展させていきたいと思っています。

③知恵と力を合わせる



森脇 君雄 (もりわき きみお)
西淀川公害患者と家族の会 会長

①私があおぞら財団を作りました。

②西淀川の空は見た目がきれいになりましたが、車の排気ガス問題が残っていて、本当の青空は見えていません。本当の青空を取り戻したいです。大きな話になりますが、エネルギー対策として、送電線の自由化に取り組んでほしいと願っています。

③理屈より実践

財団法人から公益財団法人に

～寄附金控除の対象となります～

あおぞら財団は新公益法人制度における公益財団法人になりました(2011年7月1日登記／行政庁：内閣府)。公益法人制度は制度ができてから100年以上になりますが、一度も抜本的な改革がおこなわれていなかったため、税制の見直しも含めて、2008年に「新公益法人制度」が施行されました。これによって、当財団は、2015年までに「一般財団法人」か「公益財団法人」のどちらかに移行することになりました。

「一般財団法人」は登記すれば設立できますが、「公益財団法人」は一定の基準を満たす必要があります。「公益財団法人」には高い公益性が求められる一方で、法人税において公益目的事業が非課税になったり、公益法人の寄附者に対する寄附税制の優遇措置などが設けられています。当財団への寄附も寄附金控除の対象となります。

なお、愛称はこれまで同様、「あおぞら財団」です。どうぞ今後とも引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

新法人の定款、役員 <http://aozora.or.jp/johou>

あおぞら財団 15 年間の道のり

あおぞら財団の設立は1996年9月11日。「まちづくり」「公害の経験を伝える」「環境学習」「公害患者さんの生きがいくくり」「国際交流」の5分野で活動してきた道のりを簡単にまとめてみました。こんなことしてたのか…という新しい発見があるかも？

5年目(2000年度)

- 西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会発足
- 『都市に自然をとりもどす』(学芸出版)発行



1年目(1996年度)

- まちづくりたんけん隊、原風景・原体験のほりおこし活動
- タンポポ調査開始、子どもエコクラブ発足



上田



鎗山



6年目(2001年度)

- 『西淀川公害に関する学習用パネル』発行
- 大野川緑陰道路と矢倉緑地公園をつなぐ自然観察ゾーンづくりの提案
- NGO国際会議と市民のつどい開催(北九州)



2年目(1997年度)

- 『まちあるきマップ』発行
- セミの抜け殻調査開始
- 既成市街地の再生マスタープランモデルの検討
- 工場跡地土壌汚染調査



7年目(2002年度)

- 大阪人権博物館で展示展「西淀川公害と地域と再生」
- 公害病認定患者の生活実態調査
- 公害患者のための水中リラックス教室開催



3年目(1998年度)

- 『西淀川道路環境再生プラン提言』発行
- 自転車による工場通勤モデル実験
- インターン受け入れ開始



8年目(2003年度)

- 道路環境市民塾開講
- 入居ビルを西淀川公害病患者と家族の会と区分所有で購入「あおぞらビル」に



4年目(1999年度)

- 総合環境学習ゾーン拠点施設に指定(環境省)
- 公害患者への園芸療法をスタート
- 子ども環境マップコンクール



この紙面では紹介しきれない活動がたくさんあります。詳しくはホームページに掲載している年報等をご覧くださいね。

<http://aozora.or.jp/yomu/nenjihoukoku>



財団職員入団時期

13年目(2008年度)

- 地球温暖化防止「一村一品」大作戦全国大会でフードマイレージ買物ゲームが特別賞を受賞
- 「日中の公害環境問題を考える学生セミナー」開催



9年目(2004年度)

- ウォーキングマップ作製
- 講演会「ぜん息治療の最前線」の開催
- シンポジウム「地域資料の保存と活用を考える」



藤江

14年目(2009年度)

- 環境フロンティア講座スタート
- 公害地域の今を伝えるスタディツアー開始
- BDF普及モデル事業(環境省)
- 日中環境問題サロン開始



10年目(2005年度)

- 西淀川・公害と環境資料館オープン
- 中小運輸事業者へのデジタルタコグラフの組織的導入によるエコドライブ推進事業



林

15年目(2010年度)

- 上海国際博覧会日本館で西淀川公害パネル展示
- 地域交流スペース「あおぞらイコバ」完成
- 「記録で見る大気汚染と裁判」ホームページ作成(環境再生保全機構)



11年目(2006年度)

- エコドライブが地球温暖化環境大臣賞を受賞
- 『西淀川発!これからの交通まちづくり～低速交通のすすめ～』発表
- フードマイレージ買物ゲーム完成



小平

16年目(2011年度)

- 佃地域での廃油回収事業スタート(トヨタ財団)
- 7月から公益財団法人に
- タンDEM自転車貸し出し開始



相澤

12年目(2007年度)

- 朝日新聞「明日への環境賞」授賞●自転車文化タウンづくりの会発足●ESD(持続可能な開発のための教育)モデル地域(環境省)●高齢公害患者の呼吸リハビリ入院プログラム(倉敷水島協同病院)●日中公害被害者活動支援交流会(中国環境NPOとの交流)



呼吸リハビリin姫島診療所
(2011.7.15)身近な道具を
使ってLet's Try!



環境保健



あおぞら財団は「まちづくり」「資料館」「環境学習」「環境保健」「国際交流」の5分野で活動しています。

ここでは活動の様子を写真でお伝えします。



あおぞらフォト
ギャラリー



セミのぬけ
がら調べ事
前勉強会。羽化する場所
をさがすセミの幼虫
@西淀公園(2011.7.29)



環境学習



公害地域の今を伝えるス
タディツアーであおぞら苑
を訪問(2011.08.09)利用者さんと
コミュニケーション



まちづくり



環境住宅研究会で野里の
まちあるき(2011.7.9)

西淀川菜の花
プロジェクト
エコでつながる西淀川



【廃油回収量】
総合計5,260ℓ
(2009年7月から2011年7月迄)

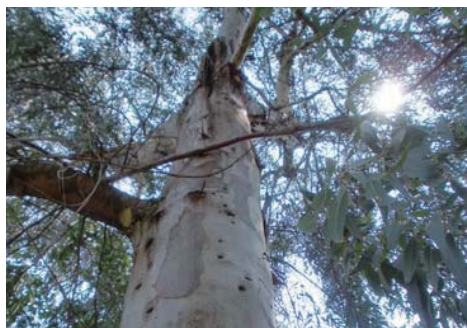
大阪府立西淀川高校等の教育関係施設や佃連合振
興町会等、地域での廃油の回収をすすめています。

広場



りべらリニューアルに伴い、会員コー
ナーを作ることになりました。会員の
みなさまの日ごろの活動や、アピ
ールしたい事、またはあおぞら財団へ
のご意見や、りべらのご感想、あふ
れる西淀川愛など、多種多彩な原稿
を寄せていただければと思います。
文字数は200字です。原稿は、表題
を「会員コーナー投稿」としてE-mail
(webmaster@aozora.or.jp)または
FAX(06-6478-5885)でお送りくだ
さい。皆さまのご参加をお待ちして
おります。

会員コーナー開設
おたより募集



大野川緑陰道路には120種類もの樹木が生育し、
それぞれの葉や実等を好む生物が集まってきま
す。写真はコアラが大好きユーカリの木。1本だ
けあります。さすがにコアラはいませんが、完成
後40年近く経った緑道の樹木の中でも、一際大
きなユーカリの木です。

大野川緑陰道路



スタッフツイッター 編集後記



台風が過ぎ、秋めいてきました。「りべら」のリニューアル第1号、みなさん楽しんでいただけたでしょうか。今回副編集長の大役を仰せつかりましたが、役不足だったと思います。今度編集長をすることになるので、その時には役不足にならないようにしなきゃ！



4月から、自治会の役員を引き受けました。高齢化率30%、「買い物難民」を支援する活動を始めようということになりました。年寄りが年寄りを支える「老老支援」の仕組みづくりに、近畿大の学生Mさんが関わってくれることになりました。これも「あおぞら人脈」のおかげです。



西淀川はクマゼミばかり。お盆休み群馬の実家に帰省の時、ニイニイ、ツクツク、アブラゼミ、様々なぬけがらを集めます。「セミのぬけがら調べ」のイベントで子供に見せる為です。小さい頃、虫とり遊びが大好きだった自分。日焼けも(あまり)気にせず集める姿に『相変わらずだね』と母は苦笑。



今年の初めからりべらリニューアルを検討していましたが、15周年に間に合ってホッとしたところです。これからは編集長が毎月変わります。リニューアル第一弾は林&相澤コンビでお届けしましたが、特色は出たでしょうか？皆様のご意見をお待ちしております。



1月から急に出なくなった私の声。最近、いろいろな人から「声出るようになったんですね」と言われると、うれしい反面、皆さんから気をつけていただいていたのだな、と自覚します。一つ一つの言葉を大切にしながら、言葉にならないことも伝わる紙面づくりを心がけていきたいと思っています。



「鎗山の鎗はかねへんです。パソコンで“やり”を変換しても出てこないです。音読みの“ソウ”で変換してください。」「ソウなんですか〜。」「ソウなんです。」「ダジャレですか?」「いや、ほんとにソウなんです…」。



ありがとうございます

(2011年6月・7月・8月 敬称略)

●入会

山澤 彩野

●お助けボランティア

浅井 真二
家入 大樹
石原 敬介
井上 正太郎
井本 晶子
大野 みさ子
岡崎 久女
蒲原 ヨシ子
小岩 智哉
貞方 雅則
佐成 志朗
谷 大輔
西村 友希
南 聡一郎
森本 太
山野 純平
山本 元
辻野 隆雄

●寄附・寄贈者

浅井 真二
新井 真
井奥 圭介
石井 琢也
伊藤 卓次
上田 幹枝
遠地 昭典
遠藤 宏一
奥村 昌裕
柏原 純夫
片岡 直樹
金谷 邦夫
(株)神戸製鋼所
北泊 謙太郎
木野 達夫
蔵本 幸治
小林 俊康
是枝 洋
酒井 健一
鷺坂 長美
佐野 邦夫
塩貝 隆夫
庄谷 邦幸
芹沢 芳郎
津留崎 直美
長瀬 文雄
西口 勲
新田 保次
福本 富男
松村 暢彦
水俣協立病院
宮本 憲一
森山 正和
山崎 圭一
山崎シャーリング
山本 元
吉村 良一
小磯 明
小田 康徳
進士 五十八
南 慎二郎
中津リバーサイド・コーポ環境を守る会

●インターン

土取 弘幸
小寺 伸幸
水島 仁美
天谷 純
榎田 健二
林田 友理恵
鐘江 元気
西田 貴裕
荒木 萌
内田 朋大
古味 那津実
坂根 慎哉
野中 趙明
松本 彩也香
野口 岳



りべら

No.122 2011年10月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人:林美帆、相澤翔平

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885

http://aozora.or.jp/

webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザインハウス

定価:一部400円(郵送料込)

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



リニューアルしました

あおぞら財団15周年を機に機関紙をリニューアルいたしました。3度目のリニューアルです。より地域の人に読んでもらえるように、地域の情報を増やし、読みやすい記事を目指しています。表題はひらがな「りべら」に変更しました。今号は16頁に増ページです。全ページカラーで、発行が隔月刊から季刊(1・4・7・10月)となります。ぜひ、配架にご協力ください。新しいりべらをどうぞよろしくお祈いします。

【日本野鳥の会大阪支部との共催】

●矢倉海岸定例探鳥会

日時:12月3日(土)、2012年1月7日(土) 毎月第一土曜日

9:30~12:30頃(現地解散)

集合:阪神電鉄西大阪線「福」駅改札口、解散矢倉緑地公園

場所:矢倉緑地公園他

ガンやカモ、冬の渡り鳥がたくさん見られます。

●あおぞら財団「ボランティアの日」

日時:12月2日(金)、2012年1月6日(金) 毎月第一金曜日

9:30~17:30(応相談)

場所:あおぞら財団事務所内

(随時ボランティアは受け付けているので興味ある方はご連絡ください)

毎号のりべらの発送作業は、ボランティアさんとしています。

【環境保全戦略講座】

●生物多様性の愛知目標達成のために私達ができる 100の提案づくりワークショップ

(主催:環境再生保全機構 協力:あおぞら財団)

日時:12月10日(土) 10:00~17:00、11日(日) 10:00~17:10

場所:10日/あおぞらビル他(西淀川区)、11日/新梅田シティ(最寄:JR大阪駅)

内容:スーパーでの買物や地域の自然、住まい等を題材に都市生活と生物多様性のつながりを学びます。愛知目標達成のために私達は何ができるかをワークショップで考えます。



冬のわたり鳥ホシハジロ(撮影:橋本正弘)



新梅田シティ新里山



淀川のシジミ

お知らせ

あなたの会費、寄附が当法人の活動を支えています。あおぞら財団への寄附や賛助会費は、寄附金控除として所得から控除されます。

●賛助会員

当財団の目的に賛同して下さる皆さん、ぜひ賛助会員になってください。会員の方には機関紙などをお送りしています。

【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

下記、口座にお振込ください。なお、振込み手数料につきましては、振込人様にてご負担下さいますようお願い申し上げます。

*郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名:あおぞら財団

*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689 口座名義:あおぞら財団賛助会員

*りそな銀行 歌島橋支店 普通 5288117 口座名義:あおぞら財団賛助会員

会員・寄附募集

●地域交流スペース 「あおぞらイコバ」貸出中

～出会い、憩い、つながる場所に～

あおぞらビル1Fのイコバは、会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。

午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

<http://aозora.or.jp/ikoba>

イコバのブログ～地域住民や学生らのセルフビルドで作られたイコバの誕生から今がわかる!～

<http://aозora.or.jp/archives/category/ikoba>

西淀川公害や環境について、西淀川の地域の歴史など知りたい人はぜひお越しください。レポート・論文のお手伝いもします。

開館日:月・金(10:00~17:00)

あおぞらビル5階

事前に連絡をお願いします

06-6475-8885

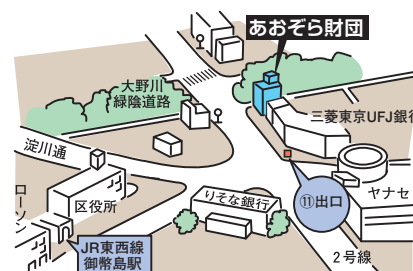
西淀川・公害と
環境資料館
(エコミュージズ)

●あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階(TEL)06-6475-8885

(FAX)06-6478-5885 電子メール:webmaster@aозora.or.jp <http://aозora.or.jp/>



- JR東西線御幣島駅⑪出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分